



TITLE:

元旦の記

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 元旦の記. 天界 1932, 12(130): 72-74

ISSUE DATE:

1932-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161752>

RIGHT:

# 元旦の記

岡山 水野 千里

## 1. 自午前零時至午前三時

ラジオで長野縣善光寺の除夜の鐘を聴きながら、五十五歳の 新玉の年を迎へた。世には老年の青年があるかと思へば、青年の老年もある。私を 或人が不老老年と呼んだ。然らば 前者に属するものと思ひ大に意を強うした。早速手水を使ひ、冷水摩擦をした。冷水摩擦は去る 明治三十九年一月凱旋以後毎日行つて居る。風邪よけとなり、一方寒、中の冷水摩擦は寒氣を避け精神を爽快ならしむる効果は大なるものである。

午前一時三十分、老妻（四十五歳）三女（十九歳）四女（十五歳）を作ひ、東山に鎮座まします氏神玉井宮に参拜した。軍服姿で 若やいで、金鷄勳章。旭日章を始め勳章、記章全部を佩用して行つた。この時 一天雲なく、上弦の月は東天に懸り、木星は天頂にその雄姿を現はし、地上は満目蕭條たる 冬景色であるが、天は百花爛漫たる春景色にも例ふべき、一年中に於て 最も一二等星多き時である。天の川は 西より南北に流れ、オリオンは兎を伴ひ西の地平線に近く、巨星シリウスは木星と其の光を競ひ、惜しくも カノーブスは地平線下に隠れて 居たが、プロシオン、ボルツクス、カストル、アルデバラン、カペラ等は何れ劣らぬ猛者揃ひ、プレヤデスは愛すべく、ペルセウス、カシオペア、セフェウス、龍、北斗は北極星を守り、獅子は 中天高く。牧夫、乙女は東天に、風なく瑞氣天地に満ち實に 壯嚴なるものである。玉井宮の神殿にぬかづき、皇室の 萬歳、國家の 安穩、滿蒙に 於ける 出征將兵の奮闘、一家の安全を 祈り、去つて 神宮奉齋會にても 同様、午後二時三十分歸宅した。

## 2. 自午前三時至午前六時

曉の鶏聲を耳にしながら寢に就いた。

### 3. 自午前六時至午前九時

午前六時起床一家團欒屠蘇を祝ふ。老母は八十二歳の高齡に達したが頑健である。五女は十三歳、長男寅一は八歳になつた。長女は遠く臺南第二高女に奉職してゐる。午前六時五十五分、ラヂオで鶏聲を聞き、午前七時、約八百軒を隔でて明治神宮の沿革及び今朝祭典の模様を知り、午前八時 鶯の初音に耳を傾けた。

立關には名刺受けを出し、畫板には福壽草、これは服部星塘畫伯の手になるものを入れ、畏友少佐宮原甲雲氏の健筆になる一幅「宇宙便吾心、吾心則宇宙」を掲げた。

### 4. 自午前九時至正午

午前九時三十分關西中學校拜賀式に臨み、式後會議室で教職員一同祝盃を舉げ、午前十一時岡山市公會堂に於ける官民聯合祝賀會に加はつた。會するもの約一千四百名。岡山市長の開會の辭に次いで岡山縣知事の發聲で一同は兩陛下の萬歳を祝し開宴。式後廊下で岡山市聯合分會長三雲大佐に特に祝詞を述べた。

### 5. 自正午至午後三時

學校長宅に年賀に行き、歸つて長男を伴ひ、水攻めに名高き高松城の所在地にあるところの稻荷に參詣した。當年は恵方に當るので、汽車、自働車とも大混雜を呈して居た。長男の希望に因つて「金のなる木」を求めてやつた。

### 6. 自午後三時至午後六時

稻荷に詣でた歸途笠井教頭宅に立寄り、年賀を述べ、御馳走に預り、備中高松驛に向つた。

### 7. 自午後六時至午後九時

備中高松驛から汽車で歸つた。宅では双六の遊びに皆々興がつて居た。本日の廻禮者は宮原六高教授を始め十數名あつた。

次に年賀狀二百餘通を整理した。私は手紙や葉書等を親族、山本博士、天文同好會員、同窓生、軍人、知人、卒業生、在學生、團體、其の他に區分して年々整理して居る。

山本博士には、去る大正九年天文同好會創立以來、特別に御懇意に預り種々御指導を願つて居る。舊臘クリスマスの際、新年の御挨拶狀を前以て戴いた。昨昭和六年中に手紙五通、葉書十通、電報一通であつた。親族 山本清次 中將外十八通。天文同好會員五十三通、その中の主なるもの新城、木村、上田、箕の諸博士、名譽會員藤井善助氏。臺灣見元了氏は最近の臺灣と題し、位置、廣袤、山系、水系、海岸等約三十項に亘り臺灣の大觀を報ぜられたのは大に參考となつた。同窓生三十三通。同窓生中には今を時めく參謀次長二宮中將や、舊臘待命になつた濱野海軍中將などがある。中に小學校時代の同窓で、相見ざること既に四十年の友岡田正乘氏は七男三女の子福者である。軍人には小林道生、小島時久兩現役少將外八通。知人は張谷純二博士外四十六通。卒業生四十通。私は教育界に身を投じて三十二年振りになるので、その間に教へたもので學校を卒業したものが約一萬もあるが、二三十年も以前のことを今に忘れず文通して居るものが數名もある。その出世頭は海軍中佐である。在校生二十五通。團體其の他が十二通あつた。

#### 8. 自午後九時至午後十二時

ラヂオで午後九時四十分の時刻を合はせ、ニュースや天氣豫報を聞いた。

## 人 事 消 息

冬休み中、宮澤氏一人が花山で留守をせられた。

一月中旬、倉敷天文臺の荒木健兒氏が花山へ來られ、四五日滞在。

二月初旬、山本會長は東京へ、歸途は諏訪へ立ち寄られ、五日頃歸洛。十日からは九州へ、福島熊本鹿児島を訪問される筈。又、月末は滿州へ調査のため出張される豫定。